©沖縄タイムス　2016年03月09日　朝刊26面　記事数：1/1　<1/1枚>
ここにいるよ　沖縄子どもの貧困（２３）＝第２部　親は・・・（１１）　サツキ（下）　生活支援受け再出発

生活支援受け再出発

ここにいるよ　沖縄 子どもの貧困 ㉓

第２部 親は…〈11〉

サツキ（下）

3歳息子「マーマー遊んで」

サツキ(21)が風俗の仕事を始め、一緒に過ごせる時間が減ってから、一人息子のレン(3)はかんしゃくを起こしたり、「お菓子買って」とわがままを言ったり、「マーマー遊んで」と甘えたりすることが増えた。

サツキ自身、子ども時代は母親の愛情に飢えていた。家計を支える母親は仕事で忙しく、夜も帰りが遅くて、サツキは一人で過ごすことが多かった。

「自分が寂しい思いをしてきたから、レンには同じ思いをさせたくなかったのに…。でも、仕事をしないと電気が止まってしまう」

同居していた彼氏のマコト(22)は働かず、家計はすべてサツキの肩に掛かった。

風俗の収入は不安定で、子どもの急病で休むこともあり、1カ月の給料は8万～11万円ほどだった。マコトと同居していたため、児童扶養手当もなかった。

それでもマコトと別れられなかったのは「本気で好きだと言ってくれる初めての人だった。この人しかいないって依存していたから」。

■　■

昨年9月、レンが県の児童相談所（児相）に一時保護された。理由はマコトのレンへの身体的暴力だった。マコトは「しつけ」と称して、レンの頭をたたいたり、腕や顔をつねったりした。当時通っていた認可保育園の保育士がレンの傷に気付き、児相に通報した。

レンが好きな細いぐるみを抱くサツキ。自身の生活を立て直し、レンが戻ったら、「お帰り、ごめんね」と言って抱き締めるつもりだ

マコトは「俺も父親にそうしつけられた」と主張した。父親を知らないサツキは「母親のしつけはそういうもんなんだ」と思った。レンが児相に保護された後、子どもの叱り方や褒め方の指導を受けて「やっぱり違うんだ」と分かった。

レンは一月で戻ったが、ことし2月、再び保護された。

今度はマコトの言葉の暴力。身体的暴力はやんだが荒い言葉で怒鳴った。レンは保育園で「死なすよ」など暴力的な言葉を使うようになった。

それに加え、サツキが風俗の仕事で疲れて、レンを保育園に連れて行けないことが増えたり、滞納が続いて電気やガスが止まるようになったことから、「子どもが安全に暮らせない」と判断された。

■　■

サツキは先月、風俗の仕事を辞めた。行政の支援で、生活保護を受給しながら、生活を立て直すことになった。現在、不眠治療のため、心療内科に通いながら、毎朝7時には起き、苦手だった家事に取り組んでいる。

マコトには、いったん距離を置くため、アパートから出ていってもらった。

レンが戻る時期は未定だが、「一緒に暮らすために、しっかり生活を立て直したい」ときっぱりと言うサツキ。最近、「保育士になりたい」と母親に夢を語るようにもなった。

県内では10代で出産する女性の割合が2・6%と全国平均1・3%の倍。多くの若年母子に関わってきた沈勲市母子生活支援センターさくら施設長の雀眞郁子さんは「若い親の中には機能不全家庭で育った人も多い。自己責任にしていたら、次の世代に連鎖して貧困世界が増えるだけだ」と指摘する。

その上で「子どもに多くの大人が関わり、保育所や夜の居場所、児童館など、子どもを預かる『公的』の場を増やすことが必要だ」と訴えた。（文中仮名）

（「子どもの貧困」取材班・高崎陽子）＝火～木曜日掲載

記事に関するご意見、情報をお寄せください。
ファクス：098(860)3483　メール：kodomo-hinkon@okinawatimes.co.jp